

日本原子力学会炉物理部会第 49 回全体会議 議事録

日時：2018 年 9 月 5 日（水）12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2018 年秋の大会 M 会場（岡山大学津島キャンパス E 棟 E11 室）

【部会賞表彰式】

1. 平成 30 年度炉物理部会賞授与式

平成 30 年度炉物理部会賞の表彰が行われた。件名及び受賞者は下記の通り。

(1) 貢献賞

件名：新規制基準対応再稼動による炉物理実験研究及び教育への多大な貢献

受賞者：京都大学 複合原子力科学研究所 臨界装置部

(2) 奨励賞

件名：加速器駆動システムにおけるパルス中性子源を用いた実効遅発中性子割合の測定

受賞者：山中 正朗（京都大学 複合原子力科学研究所）

件名：Reduced Order Modeling(ROM)に基づいた効率的な感度係数評価手法の開発

受賞者：方野 量太（日本原子力研究開発機構）

【審議事項】

2. 平成 30 年度予算及び執行状況について（資料 49-01）

財務小委員会担当幹事より資料 49-01 に基づき、平成 30 年度の予算及び 8/24 時点迄の実績について報告がなされた。旅費交通費に関し、昨年度繰越金申請が間に合わず、今年度の予算外申請として処理する旨の説明があった。加えて、PHYSOR2018 への参加学生に対する旅費補助、部会賞副賞の表彰盾代金の実績が報告され、了承された。

3. 平成 31 年度予算（案）について（資料 49-02）

財務小委員会担当幹事より資料 49-02 に基づき、平成 31 年度の予算案について報告がなされた。主な支出が、旅費交通費 32 万円（対象者及び対象会議は今後検討予定）及び部会賞副賞の代金 3 万円であるとの説明があり、了承された。

4. 平成 31 年春の年会での企画セッションについて（資料 49-03）

学術交流小委員会担当幹事より資料 49-03 に基づき、企画セッションのテーマ案につ

いて説明があった。追加のテーマ案については、メールにて運営委員会に伝えることとし、テーマ選定は運営委員会に一任する方針が説明され、了承された。

5. RPHA2019 の開催について (資料 49-04)

学術交流小委員会担当幹事(RPHA 担当)より資料 49-04 に基づき、RPHA2019 を 2019 年 12 月に炉物理部会主催で開催する旨の提案がなされ、了承された。併せて、準備委員会の構成メンバー案の説明があり、了承された。但し、RPHA に対する炉物理部会としての今後の係り方については、継続して議論する必要があるとの問題提起がなされた。

【報告事項】

6. 第 50 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告 (資料 49-05)

セミナー小委員会担当幹事より資料 49-05 に基づき、第 50 回炉物理夏期セミナーについて開催報告がなされた。夏期セミナーの収支については、参加人数によっては厳しい状況も想定されるため、参加費の設定について今後検討する必要がある旨、併せて報告があった。

【その他】

7. 日本原子力学会誌 60 周年記念号(2019 年 4 月号)企画記事執筆について(資料 49-06)

部会長より資料 49-06 に基づき、原子力学会より依頼のあった企画記事執筆について説明があった。執筆者としては、名古屋大学山本教授、北大千葉准教授の推薦があり、了承された。記事の内容としては、執筆者に一任する方針となったが、部会員より「総花的な内容とせず、テーマを絞った上でメッセージ性があるものとして欲しい。」「読者が読みたくなるような内容にして欲しい。」との意見が出された。

8. 炉物理教科書の作成について (資料 49-07)

部会長より資料 49-07 に基づき、部会にて炉物理に関する教科書を作成する計画について説明があった。教科書としては、数式を使用しない読み物としての第 1 部と従来の炉物理の教科書に近い第 2 部の 2 部構成として作成する方針が提案され、了承された。

教科書の内容に対する意見として、部会員より「読者のレベルをどこに設定するのかをはっきりさせる必要がある。」「炉主任の試験問題をターゲットとするのは少し難易度が高過ぎる(ので、技術士のみを対象とするのがよい。」「読み物として作成するのは良いが、分厚すぎると敬遠される可能性あるため、工夫が必要。」「手軽に手に取ってもらえる内容にする必要がある。」「著作権は明確にしたほうが良い」との意見が出された。なお、追加の意見等については、メールにて部会長に連絡することとした。

今後の進め方として、別途立ち上げ予定の人材基盤 WG の下にサブ WG を設置し、第 1 部を対象に検討を開始すること、執筆者はボランティアを募ることとし、メーリングリストで協力をお願いする方針が提案され、了承された。

9. 人材基盤 WG 及び関連するサブワーキングの設置 (資料 49-08)

部会長より資料 49-08 に基づき、2017 年度炉物理ロードマップ報告書の提言に従い、人材基盤 WG の設置について提案がなされた。提案では、炉物理部会運営委員会の下に、人材基盤 WG を設置し、テーマに応じてサブ WG を設置して活動を推進する方針が説明され、了承された。WG のメンバーの選定は、運営委員会にて行い、活動の進捗に応じて全体会議で報告することとした。なお、全体会議の直後に実施された研究炉に関する企画セッションにおいて、研究炉に関する議論を継続する必要があるとの認識があり、サブ WG のテーマに加えることを検討する。

10. 第 51 回炉物理夏期セミナー開催に係るアンケート (資料 49-09)

セミナー小委員会担当幹事より資料 49-09 に基づき、第 51 回炉物理夏期セミナー開催に係るアンケートの依頼があった。会場にて配布したアンケート用紙に対して、大会期間中の回答を希望する旨の説明があった。

11. 第 7 回炉物理専門委員会の案内 (資料 49-10)

京大複合研・卞氏から資料 49-10 に基づき、第 7 回「炉物理専門研究会」(2018 年 11/26-27@京大複合原子力科学研究所) の開催案内について紹介があった。

【配布資料】

資料 49-01：平成 30 年度 炉物理部会予算及び実績

資料 49-02：平成 31 年度 炉物理部会予算案

資料 49-03：平成 31 年春の年会での企画セッションについて

資料 49-04：第 3 回「日中韓炉物理会議 (RPHA19)」の準備委員会 (案)

資料 49-05：第 50 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告

資料 49-06：原子力学会誌「アトモス」への寄稿のお願い

資料 49-07：炉物理部会で作成する炉物理の教科書の作成について(案)

資料 49-08：人材基盤 WG 及び作業部会の設置について(案)

資料 49-09：第 51 回夏期セミナーのためのアンケート

資料 49-10：第 7 回「炉物理専門研究会」のご案内

以 上